国語科学習指導案

日　時　平成２０年９月１２日（金）　１校時
学　級　盛岡市立下橋中学校　３年１組
（男子１３名　女子１６名　計２９名）
授業者　伊　藤　明　美

１　単元名　４　古典を楽しむ　「夏草－「おくのほそ道」から－」（光村図書「国語３」）
～芭蕉が流した泪を考える～

２　単元について

この単元において中心となる指導事項は、学習指導要領の「C 読むこと」エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。」である。「我が国の文化と伝統を尊重し、生涯にわたって古典に親しむ態度の育成」を重視した古典の指導は、現行の学習指導要領では、「C読むこと」の「内容の取り扱い」の配慮事項として示されているが、新学習指導要領では、平成２０年１月の中央教育審議会答申を踏まえ、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「ア伝統的な言語文化に関する事項」の中で具体的な指導事項として示されている。

古典を楽しむとは、古典の文章や内容を読んだり知ったりするだけでなく、そこから今の生活を刺激し、豊かにすることである。「おくのほそ道」は、江戸時代の代表的な紀行文学である。完成まで何度も推敲を重ねられ、音読すると流れるような音律を感じとることができる。日本の古典だけでなく、中国の古典の知識も踏まえて書かれており、作者の旅した土地の風物や作者の思いが、散文と俳句に融合した格調高い文章になっている。本教材の「１」（門出）には、俳人松尾芭蕉の「旅＝人生」という考え方が示され、旅に出かける前の心境や旅への憧れが述べられている。また、「２」は、我が郷土、岩手県平泉を訪れ、藤原三代の栄華の跡や義経主従の戦いの跡をたどり、人生の無常を感じる芭蕉の心情が描かれている。

「１」には、訳文と脚注があるが、「２」は、脚注のみである。何度も音読を繰り返すことにより、原文に親しませ、大意をとらえさせたい。芭蕉の旅の心に同化するには、わたしたちの側の深い想像力が必要である。芭蕉は、わが郷土岩手「平泉」に何をもとめ、旅して来たのか。「時がうつるまで泪を流した」芭蕉の思いを想像し、心情に迫る読みに深めたい。「おくのほそ道」を通して習得した知識をもとに、世界遺産登録が待たれる、郷土「平泉」に誇りをもち、その価値を自らの言葉で発信できる生徒に育てたい。

３　生徒について

生徒はこれまで、１年「蓬莱の玉の枝」（竹取物語）２年「扇の的」（平家物語）「仁和寺の法師」（徒然草）の学習を通し、古典の文章に出会い、音読を中心に学習を進めてきた。昔の人のものの見方や考え方を知り、古典に親しみ、特にも、２年「扇の的」では、源平の合戦で活躍する源義経の人物像にも焦点をあて学習を深めてきた。

古典学習を進めるに従い、最初、難解と思われていた文章も音読を繰り返すことによりリズムがつかめ、親しめること、現在まで残っている古典には、時を越えて共感できる思いがあること、自分達の暮らしや考え方を豊かにさせてくれる作品があることに生徒たちは気づいている。古典の学習を進めるにつれ、言語の歴史や作品の時代的・文化的背景にも気づき、楽しんで理解を深めることができるようになっている。

本校３年生は、NRT の結果から、国語の各領域で全国平均を上回っている。与えられたテキストの課題を理解し、正解を選ぶことは得意である。しかし、自分の考えをまとめ、相手にわかってもらえるように適切に表現すること。他から学び、自分の表現に生かすことなど、他者と関わり、自分の表現を豊かにしていくことは苦手な生徒たちが多い。そこで、広く資料や情報を集めながら自らが学び、その学びを身近な他者からより広い世界に発信し交流することで、より深く豊かな学びになることを体得させたい。思考力・判断力・表現力を身につけ、自分の思いが相手に正しく伝わり、自分の内面が豊かになっていくことにも気づかせたい。

４　指導の構想

今回の学習指導要領の改訂では、国語科改善の具体的な基本方針として、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化

に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する」とある。また、特にも古典の指導については、わが国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視するとある。

本単元の指導では、歴史的背景を理解しながら、古典を読み、自分の表現に生かす「読解表現力」の育成をねらい授業を構想した。古典作品の口語訳理解にとどまらず、資料を活用し、作者の思いに迫る方法を身につけ、さらに、発表しあい、他の人のものの見方や考え方から、より豊かな読み取りや表現ができる生徒の育成をねらいとしている。

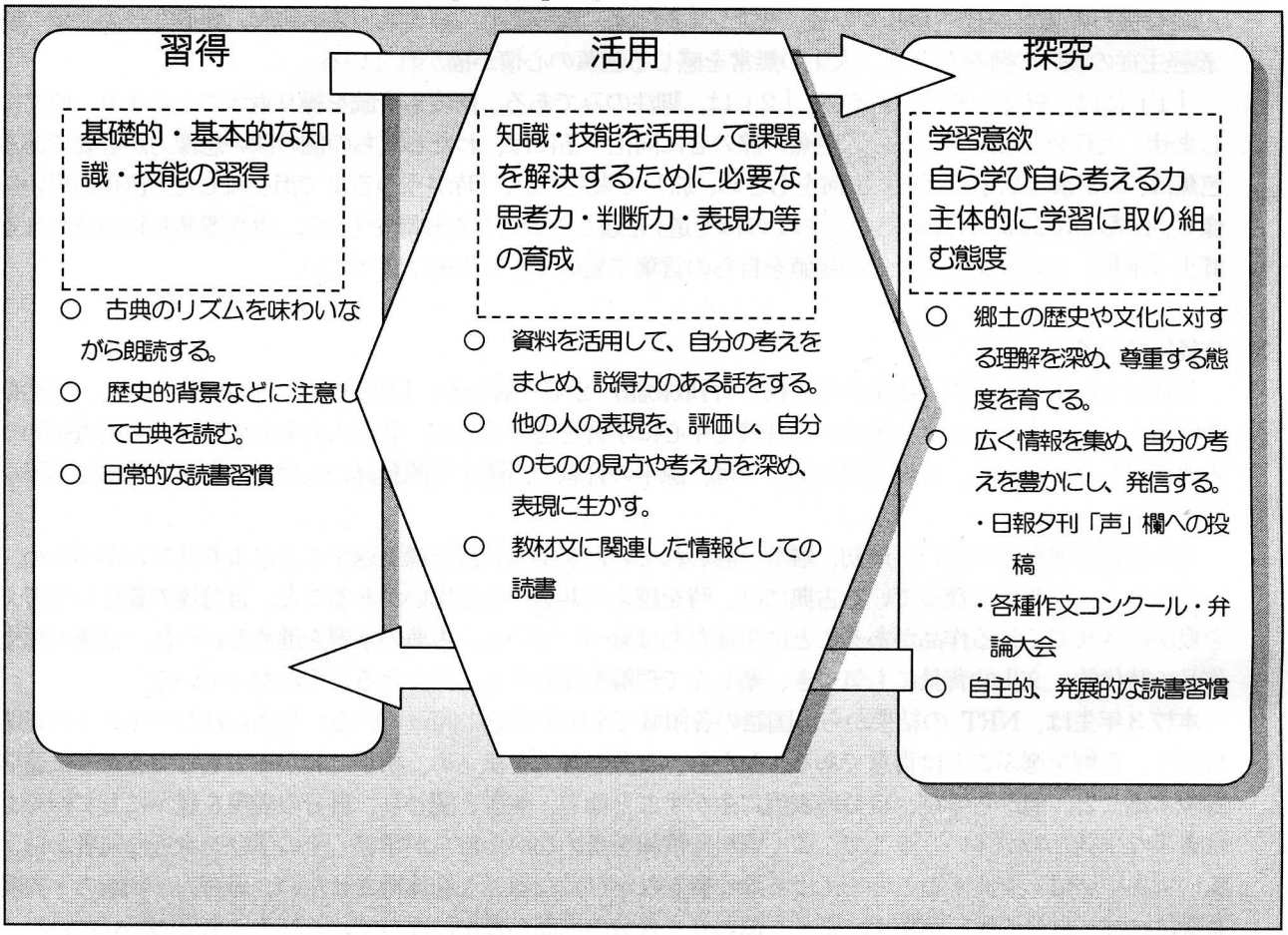
「おくのほそ道」は、芭蕉が何度も推敲を重ね、練り上げられた作品で、リズムがあり、美しい文章である。後世に残る格調高い文章を何度も口に出して暗誦することで、古典への抵抗をなくし、古典学習への意欲や自信をもたせたい。

また、「夏草」は、わが郷土岩手県平泉を松尾芭蕉が旅し、後世に広く伝わる名文である。芭蕉が抱いたこの地への憧れやこの地を実際に訪れ、感じた深い思いを生徒に正確に読み取らせたい。さらに、視点を変えて、歴史的な事実や必要な情報を集め、お互いの考えを発表し、読みを深める。お互いの発表を聞き、自らの読み取りを深めることで、主体的な表現者となり、発信できる生徒を育てたい。

今回、世界遺産の登録に至らなかった「平泉」ではあるが、その歴史的・文化的価値は高い。目に見えないものが伝えている感動・価値を芭蕉の作品から読み取り、歴史的・文化的な価値への理解を深めさせたい。広い範囲から情報を収集し、郷土岩手県を見つめ、県民の一人として、知り得た知識を、伝え合い、深く味わい、自分の視野を広げ、世界に発信できる生徒に育てたい。

5　指導計画・評価計画

（1）　単元における「習得」「活用」「探究」の流れ



（2）単元の指導計画

時間	おもな学習内容	学習目標	評価規準
第1時	1　「おくのほそ道」と松尾芭蕉についての基礎知識をもつ。 2　原文を繰り返し音読し、芭蕉独特の文体に慣れ親しむ。	○　「おくのほそ道」と、松尾芭蕉についての基礎知識をもつことができる。 ○　「1」「2」を朗読することができる。	・　俳諧紀行文「おくのほそ道」や松尾芭蕉について資料集などで調べようとしている。（関心・意欲・態度） ・　古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。（読むこと） ・　歴史的仮名遣いに注意して読むことができる。（言語事項）
第2時	3　現代語訳、脚注を参考にしながら、原文の内容、表現の特色をとらえる。	○　現代語訳、脚注を参考に、「1」に描かれている情景や芭蕉の心情、ものの見方を理解することができる。	・「おくのほそ道」を興味を持って読もうとしている。（関心・意欲・態度） ・　現代語訳「1」の場面を読んで、芭蕉の旅についての考え方や人生観「旅＝人生」について理解することができる。（読むこと） ・　対句表現などの特徴を理解することができる。（言語事項）
第3時	4　「2」の部分の原文を通読する。 5　脚注と資料を使いながら、コースを選択し、芭蕉が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いを想像し、感想を書く。	○　「2」の部分を読み、現代語に訳し、描かれている心情や情景を理解することができる。 ○　芭蕉が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いを想像し、表現することができる。	・　郷土平泉の紀行文を興味をもって読もうとしている。（関心・意欲・態度） ・　脚注や歴史的背景を理解して原文の内容を理解することができる。（読むこと） ・　俳句を理解するうえで必要な語句を選び、表現に役立てることができる。（言語事項）
第4時本時	6　芭蕉が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いをグループで発表し交流する。 7　他の人の良いところを取り入れ、「夏草や～」の俳句を鑑賞し、感想を書く。	○　芭蕉が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いをグループ内で発表することができる。 ○「夏草や～」の俳句の感想を書くことができる。	・　資料を使って深めた感想を原文に根拠をもとめながら、相手にわかるように発表しようとしている。（関心・意欲・態度） ・　自分の考えを他の人にわかってもらえるように発表し、自分の考えと比べながら他の人の発表を聞くことができる。（読むこと） ・　他の人の良いところを取り入れ、より豊かな自分の表現に役立てて感想を書くことができる。（言語事項）
第5時	8　「2」で芭蕉が光堂で何を見、何を感じたか読み取る。 9　「おくのほそ道―平泉」で学習したことをもとに岩手日報「声」欄に発信する文章を書く。	○　「2」の「五月雨の～」の俳句を鑑賞することができる。 ○　学習全体を振り返り、平泉の歴史的・文化的価値を発信する文章を書くことができる。	・　郷土平泉の場面での、芭蕉の思いを理解し、自分の表現で発信しようとしている。（関心・意欲・態度） ・芭蕉の表現から読み深めたことをもとに平泉の価値を書くことができる。（読むこと） ・　表現を工夫し、まとまった文章を書くことができる。（言語事項）

6　本時について

（1）　主題　なぜ、芭蕉は時が過ぎるのも忘れて泪を流したのか。平泉の地での芭蕉の思いに迫ろう。

（2）　目標、パフォーマンス課題、ルーブリック

指導目標	1　資料を使って深めた感想を原文に根拠をもとめながら、相手にわかるように発表しようとしている。（関心・意欲・態度） 2　自分の考えを他の人にわかってもらえるように発表し、自分の考えと比べながら他の人の発表を聞くことができる。（読むこと） 3　他の人の良いところを取り入れ、より豊かな自分の表現に役立てて感想を書くことができる。（言語事項）

評価目標	評価方法
・　資料を使って深めた感想を原文に根拠をもとめながら、相手にわかるように発表しようとしている。（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 なぜ、芭蕉は時が過ぎるのも忘れて泪を流したのか。平泉の地での芭蕉の思いに迫ろう。
・　自分の考えを他の人にわかってもらえるように発表し、自分の考えと比べながら他の人の発表を聞くことができる。（読むこと）	
・　他の人の良いところを取り入れ、より豊かな自分の表現に役立てて感想を書くことができる。（言語事項）	

学習活動	評価項目	評価する活動・資料	A	B	C	D
1　音読と芭蕉が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いの感想の記入	関心・意欲・態度	音読 感想用紙	興味をもって「おくのほそ道」を読み、自ら選択したコースで、芭蕉の思いを想像し、感想を書くことができる。	「おくのほそ道」を課題意識をもって読み、選択したコースの感想を書くことができる。	「おくのほそ道」を読み、割り当てられたコースで芭蕉の思いを想像し、簡単な感想を書くことができる。	古典の学習に興味を持てず、「おくのほそ道」の内容をとらえることができないため、感想を書くことができない。
2　芭蕉が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いのグループ交流。	読むこと	感想用紙 発表態度 評価カード	自分のコースで調べた感想を、適度な声の大きさ・落ち着いた態度で、グループ内で発表ができる。 他の人の発表を、メモをとりながら真剣に聞き、自分の表現に役立てようとしている。	自分のコースで調べた感想を、グループ内で発表することができる。 他の人の発表を評価しながら聞き、どの人の発表が良いか判断することができる。	感想を書き、発表原稿はできているが、声が小さいなどのため、グループの人が聞き取りにくい。 他の人の発表を漫然と聞いて評価している。	感想ができていないので、グループ内での発表が不十分で相手に伝えることができない。 他の人の発表を集中して聞くことができない。
3　他の人の良いところを取り入れた「夏草や～」の俳句の感想	言語事項	感想用紙	他の人の発表の良いところを取り入れ、俳句を鑑賞し、テキストに戻って適切に表現し、発表することができる。	他の人の発表を取り入れ、芭蕉の思いを想像し、俳句の感想を書くことができる。	俳句の感想を書くことはできるが、交流による広がりや語彙が乏しい。	俳句の感想を書くことができない。

（3）　本時の構想

前時までに「2」平泉の場面の大意をつかみ、口語訳を確認しておく（習得）。その上で「なぜ、芭蕉は高館で、時が過ぎるのも忘れて泪を流したのか。」という課題に対し、芭蕉の思いに迫る3つのコースに別れ、調べ学習を行う。資料を使って歴史的背景などを読み取り、感想を仕上げておく。各コースの事前の読み取りで期待されることは、以下の通りである。

（1）夏草コースは、「現在残っているものとなくなってしまったもの」を本文で確認しながら、「万物はうつりかわり、はかない」という、「1」ですでに読み取っている芭蕉の人生観を想起させ、高館での思いを感じとらせる。

（2）兵どもコースは、「まづ、高館に登れば」の「まづ」に注目し、芭蕉が平泉を訪れ、真っ先に向かった場所「高館」に注目し、悲運の武将源義経終焉の地、義経やその家臣の運命を悼む芭蕉の思いを感じとらせる。

（3）夢の跡コースは、「三代の栄耀」や「一炊の夢」、杜甫の「春望」などの歴史的背景や古典・漢文の引用が指し示す内容を調べ、藤原三代の願いやその栄華と滅亡から芭蕉の思いに迫らせる。

各自の感想をグループで交流し、他の人の発表を聞くことで、自分の読みを豊かにし、芭蕉が、何を思い平泉の地を訪れ、実際に「高館の地で、ときのうつるまで泪を流した」その思いの深さに迫らせる。

（4）展開

段階	学習内容	学習活動	時間	○留意点◆資料 ☆評価
導入	1前時の学習を想起する。 2本時の学習課題を確認する。	1前時までの学習の確認をする。 （1）「2」音読の音読をする。 2本時の学習課題を確認する。 なぜ、芭蕉は時が過ぎるのも忘れて泪を流したのか。平泉の地での芭蕉の思いに迫ろう。	5	☆　音読の姿勢 声・表情 ○「2」の場面の確認
展開	3学習課題を解決する。 （1）各自のコースで読み取った感想の確認。 （2）グループで、各コースの感想を発表する。 （3）メモをとりながら発表を聞く。 （4）「夏草や～」の俳句の感想を書く。 （5）感想の発表	3課題解決 （1）視点を変えて、読み取った芭蕉の思いの発表原稿の確認をする。 **夏草コース**　平泉の自然　変わらないものと変わったもの・なくなったもの。芭蕉の人生観　旅の考え方 **兵どもコース**芭蕉が真っ先に訪れた場所義経終焉の地　義経の活躍、なぜ、義経は平泉に来たのか。義経の家来や取りまく人々の思い **夢の跡コース**藤原三代の栄華　一炊の夢　「春望」の引用の意味　清衡の願い　みちのくの王者秀衡の勢力 （2）各グループで発表する。 ①　グループ内での発表 ②　評価カード ③　代表者の選出 （3）グループ代表者の発表を聞き、メモをとる。 **夏草コース**　芭蕉の人生観「旅＝人生」の考え方から万物は移り変わりはかないものであるという芭蕉の人生観を理解しているか。 **兵どもコース**　平泉が悲運の武将義経の終焉の地であることを理解し、義経やその家臣たちの運命をいたむ芭蕉の思いを理解しているか。 **夢の跡コース**　藤原氏の栄華と滅亡、初代清衡の願いなど歴史的な背景を理解し、藤原三代の運命をいたむ芭蕉の思いを理解しているか。 （4）他の人の良いところを取り入れながら「夏草や～」の俳句を鑑賞し、感想を書く。 （5）感想を発表する。	5 15 15 5	◆　感想用紙 ☆　発表原稿の内容（関心・意欲・態度） ○　班の発表 ◆　発表原稿 ◆　評価カード ☆　発表態度 ☆　評価カードの記入（読む） ○　芭蕉の人生観 ○　義経主従の歴史的背景や運命。 ○　藤原三代の栄華と滅亡、初代清衡の願いなど ◆　感想シート ☆　交流後の深まりの記述。（言語事項）
終結	4　本時のまとめをする。 5　次時の学習の見通しをもつ。	4　芭蕉の心情を思い浮かべながら「2」平泉を音読する。 5　次時は、日報「声」欄への平泉の価値を投稿する原稿を書くことを確認する。	5	☆　心情がこもった音読。発信への意欲（関心・意欲・態度）